

授業科目名・形態	公衆衛生看護技術論 演習	必修・選択の別	選択	単位数	1
科目担当者氏名	藤田 碧	実務経験の有無	有	開講期	3年後期

【授業の主題】

対象者のライフステージや活動場所に関わらず公衆衛生看護活動に共通している、公衆衛生看護技術の実践活動について学びます。公衆衛生看護技術は、臨床場面での看護で行うテクニカル・スキル（手技）としての技術とは性質が異なり、実践能力と一体となったものです。個人とコミュニティを俯瞰し支援を展開する実践力を養います。

【到達目標】

1. 対象者の健康問題解決に向けた保健指導の方法・技術を理解できる。
2. 家庭訪問の一連の過程（情報収集、アセスメント、実施、評価）を理解し、実践できる。
3. 健康教育・健康学習の計画を立案し、実践できる。

【授業計画・内容】

第1回	保健指導	保健指導の意義、目的・対象・特徴・方法
第2回	健康相談	健康相談の目的・対象・特性
第3回	健康相談	健康相談の相談技術
第4回	家庭訪問	家庭訪問の目的・対象・技術
第5回	家庭訪問	家庭訪問のプロセス
第6回	家庭訪問	家庭訪問の実際（訪問計画立案）
第7回	家庭訪問	家庭訪問の実際（演習1）
第8回	家庭訪問	家庭訪問の実際（演習2）
第9回	健康教育・健康学習	実態把握、健診結果に基づいた健康教育・健康学習
第10回	健康教育・健康学習の実際	計画立案（企画書・指導案の作成）
第11回	健康教育・健康学習の実際	計画立案（企画書・指導案の修正）
第12回	健康教育・健康学習の実際	計画立案（企画書・指導案の修正、媒体の作成）
第13回	健康教育・健康学習の実際	実施準備（媒体等の完成、デモンストレーション）
第14回	健康教育・健康学習の実際	グループ発表
第15回	健康教育・健康学習の実際	グループ発表、まとめ

【授業実施方法】

講義、演習

【授業準備】

教科書や配布資料を授業前後に熟読。また関連科目との連動した理解を意図して自己学習してください。

【主な関連する科目】

「健康教育論」「母子保健活動論」「成人保健活動論」「公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ」「公衆衛生看護活動展開論Ⅰ～Ⅲ」

【教科書等】

佐伯和子ほか：公衆衛生看護学テキスト2 公衆衛生看護の方法と技術第2版， 医歯薬出版株式会社，2022

【参考文献】

授業内で適宜提示

【成績評価方法】

受講態度等（5%），演習内容・提出課題（45%），定期試験の成績（50%）による総合評価

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

行政保健師として地域保健を経験。ほか、委託による事業所・家庭を訪問しての特定保健指導・健診関連業務、NPOでのハイリスク児支援等の経験をあわせて、対象者が持つ力を尊重しながらより健やかに生きることを支援する方法について、演習と意見交換を重ねながら進行していきます。

【学生へのメッセージ】

形がなく見えにくい公衆衛生看護技術の一連を実感し、コミュニティや人々に学び・コミュニティや人々に還元する公衆衛生看護活動の醍醐味を感じ、特に直接的な対人支援の技術の習得をする時間としたいと思います。最善を模索しながらの支援を、この授業内でも主体的に行い、仲間と学び合ってください。また保健師科目履修の学生さんは、公衆衛生看護活動展開論Ⅰ・Ⅱでの実習地の地域診断と本授業の健康教育が連動しますので、科目間で関連付けた理解を意図して自己学習を進めてください。